

介護データによる エビデンスの活用

『情報』と『分析』



特別養護老人ホーム 西貝の郷

私は8つあるユニットの「そよかぜユニット」に所属しています。

「そよかぜユニット」では自力で排泄できる方が少なく、本人様の生活リズム、その都度の排尿量を基にお声掛けの時間を検討し、日頃の支援を行っています。

現在のお客様への排泄支援は

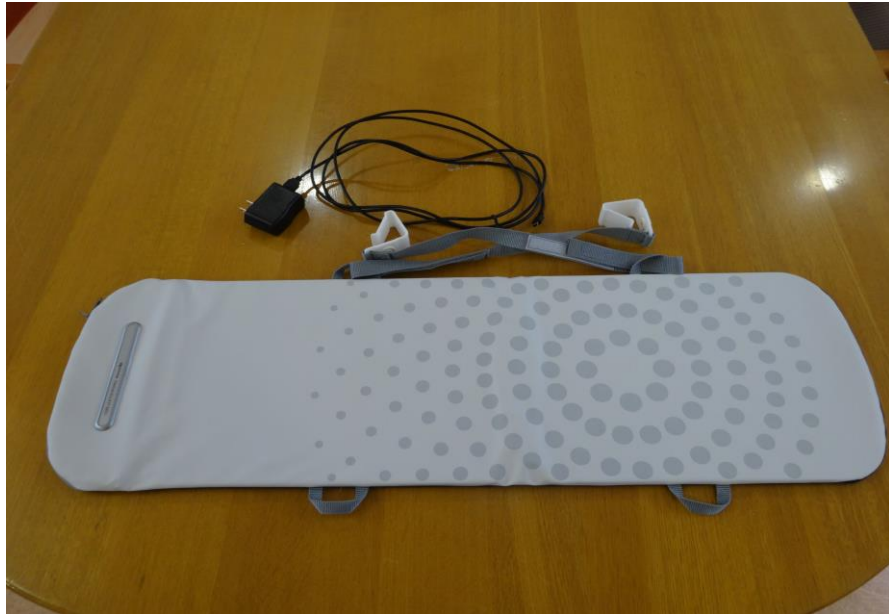
「適切なのだろうか？」

「職員目線になっていないだろうか？」

「お客様に負担が生じていないだろうか？」

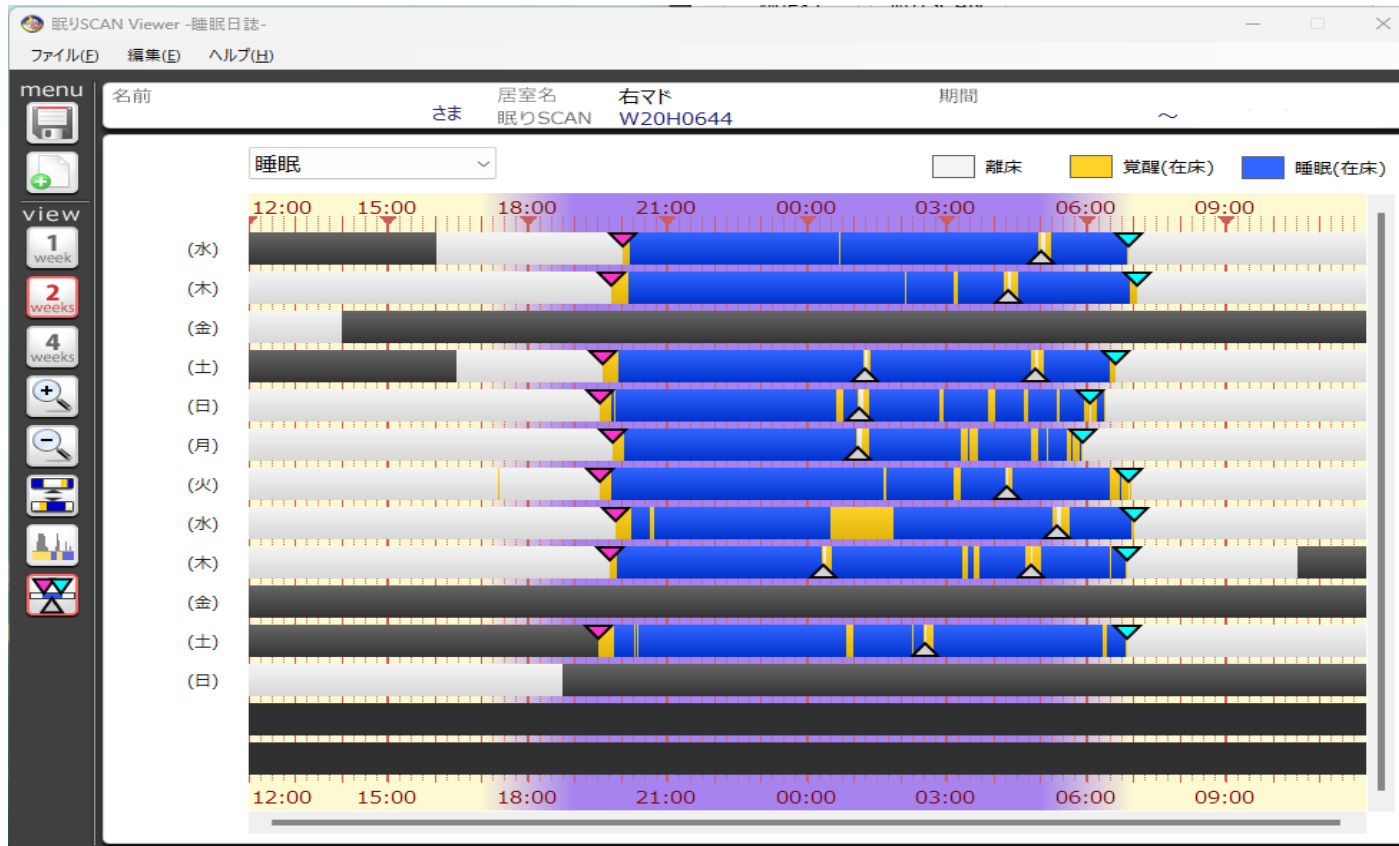
と**疑念**を感じ心地よさを求め見直しを行いました。

排泄支援を見直すに当たり様々な角度からのお客様の情報を精査していく必要があると感じました。情報を得るにあたり、現在施設に導入されている介護機器「**眠りスキャン**」を用いたデータ収集とデータから得られる情報を分析し解析結果を基にお客様にとってすぐわしいケアを目指し取り組みました。



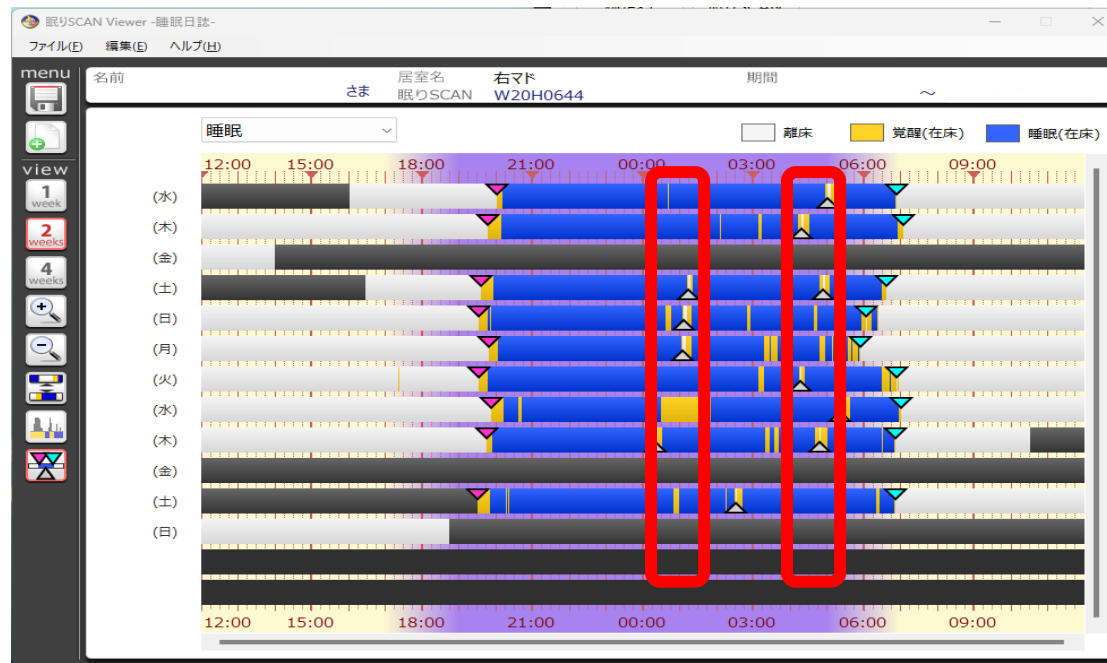
事例 1

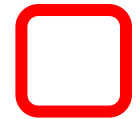
夜間帯、ご自分でトイレに行かれるお客様。
尿意から覚醒され、トイレに行かれるまでにパッドへ排尿されてしまうことがあり「汚しちゃった」と気にされていました。



眠りスキヤンの
睡眠グラフで
確認する。

事例 1

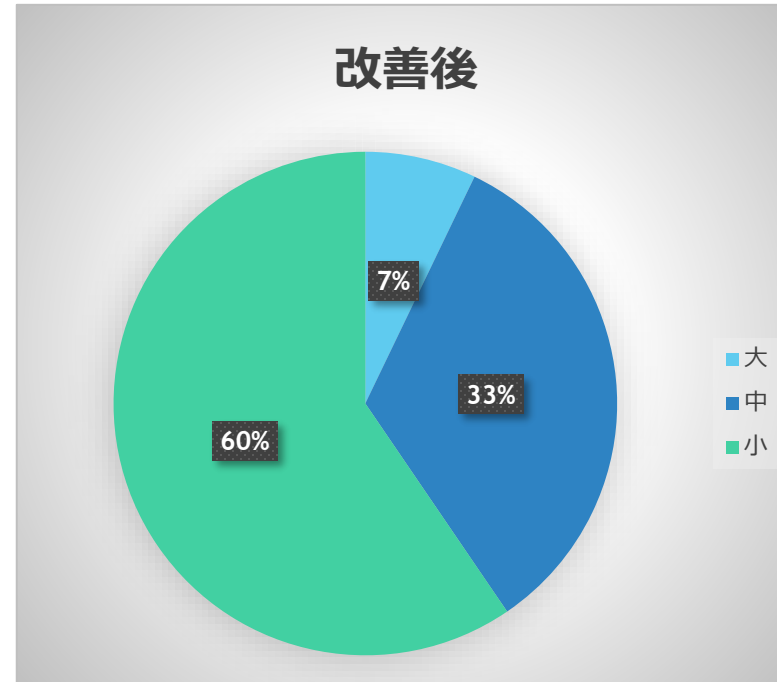
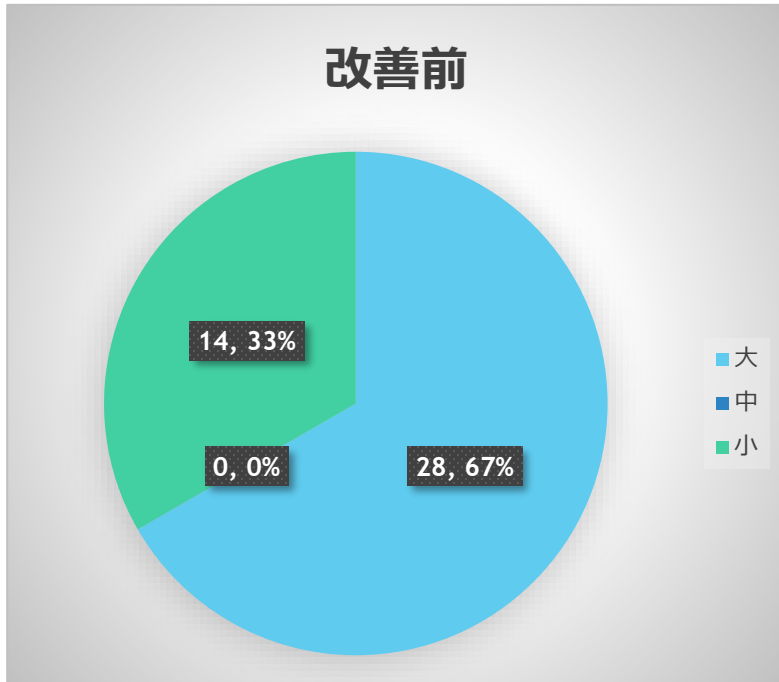


 に注目しました。

★1時頃と4時～5時に起きられている事が分かりました。

★事前に声掛けを行うことでパッドへの汚染頻度を軽減することができました。

事例 1



★グラフの比較により使用しているパッドに大きな変化が見られました。

★大パッドの使用量が低下し、小・中パッドの使用量が増えています。

事例 1

結果

トイレ誘導時間をお客様のタイミングに合わせることが出来、パッドへの汚染軽減に繋がりました。

コスト面に置いても30%程コストカットすることが出来ました。

トイレ誘導時間を特定できたことで眠りスキャンを外しセンサーの無い生活を提供することが出来ています。

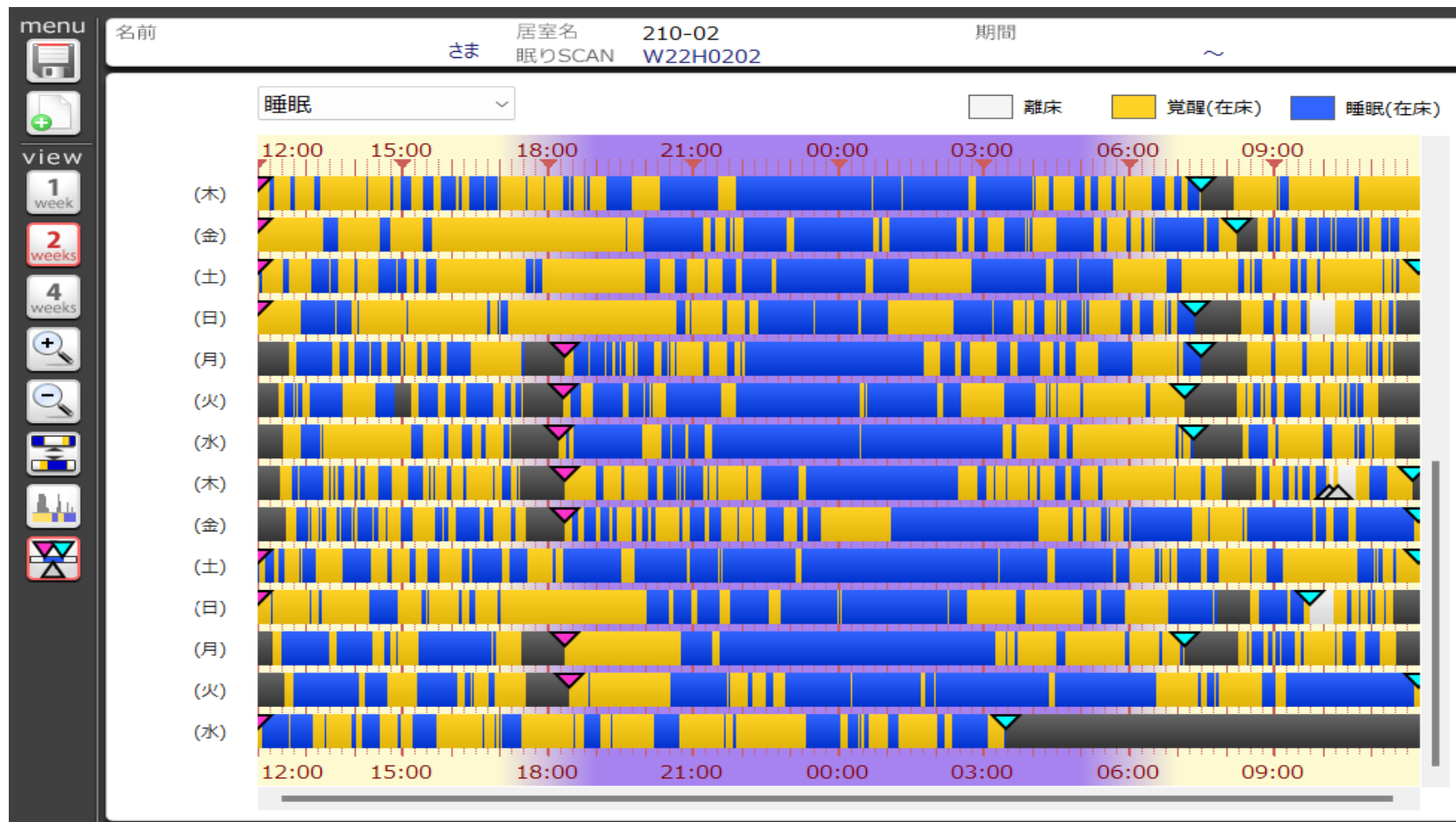
事例 2

昼夜ベッド上での生活が主体となるお客様。

尿がパッドより漏れてしまうことを心配され、不安からこまめなパッド交換のご希望がきかれていました。

事例 2

まず始めに睡眠の様子を確認してみました。

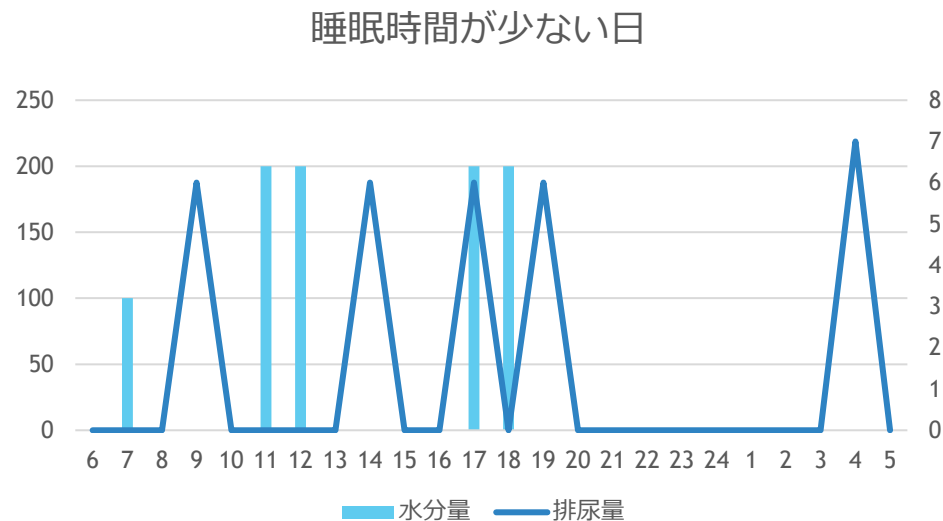


事例 2

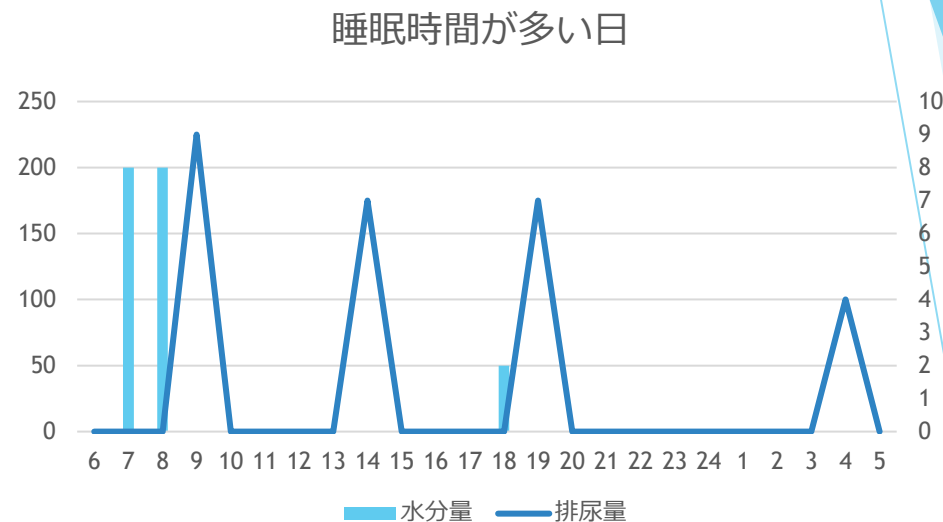
睡眠時間が多い日と少ない日で水分摂取量と排尿を比較していきます。



事例 2



↑ 水分摂取量が多い



↑ 水分摂取量が少ない

★水分摂取量が多い日にはパッド交換回数が多くなっていました。

★毎日の水分摂取量に大きな差があり、パッド交換時間を固定していく事は難しいと感じました。

事例 2

以上の評価よりお客様のご要望通りにパッド交換を行うことが、一番お客様の安心につながるのだと思いました。

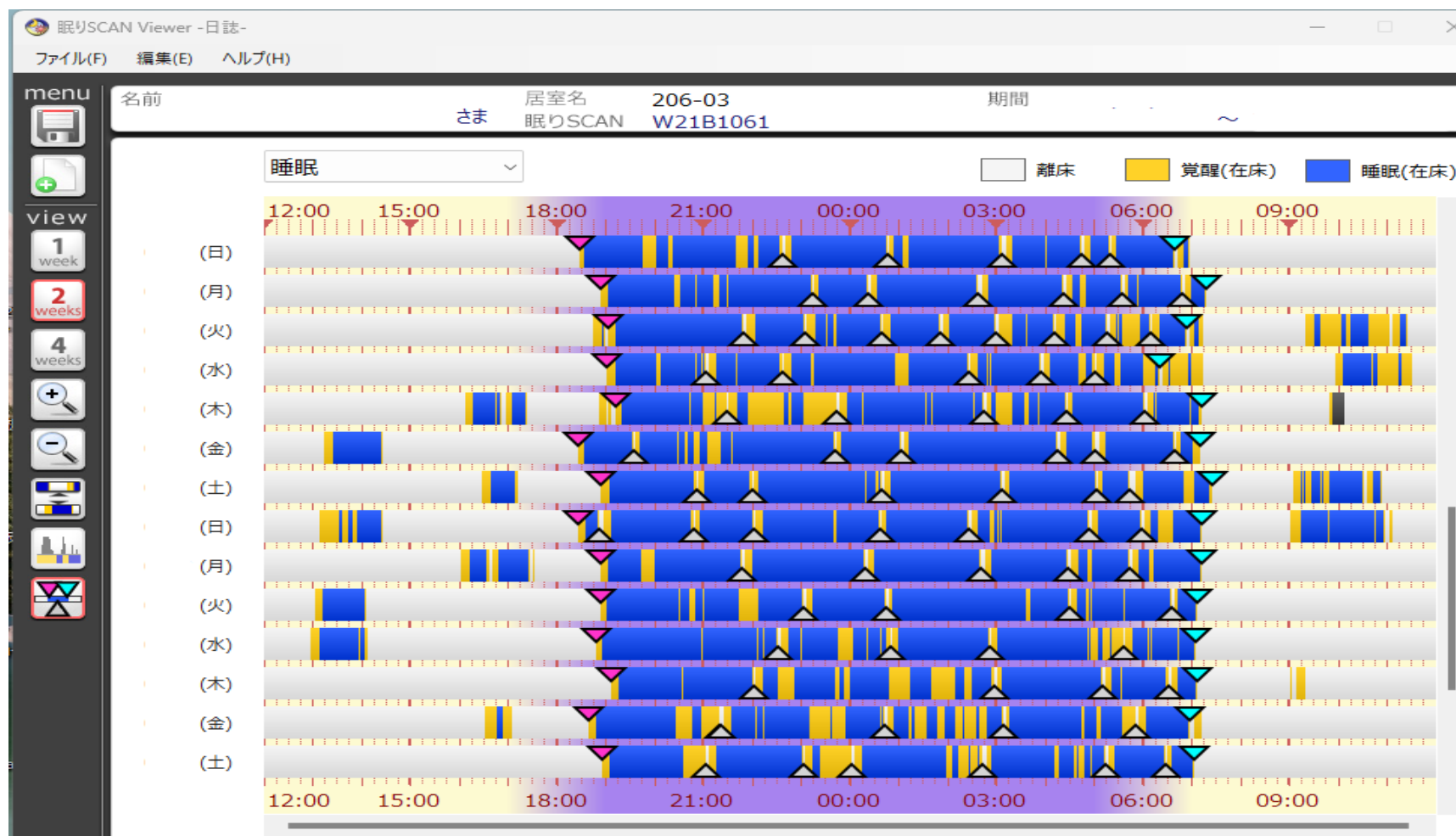
単純なデータだけでは比較が難しい事が分かりました。今後もデータを積み上げることで精度を上げていき比較対象を増やして行きたいと思います。

夜間の巡視でお客様の転落を発見しました。

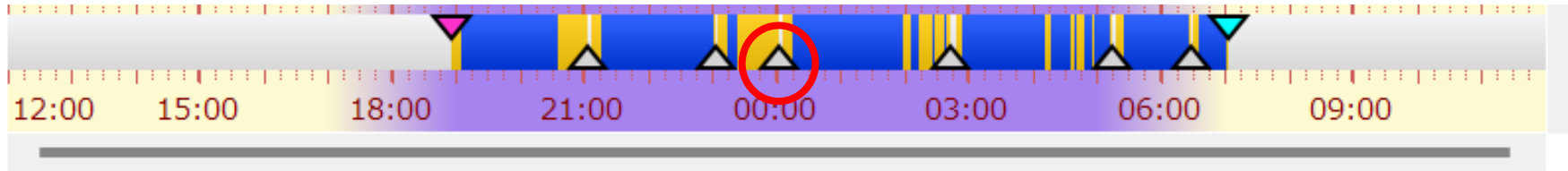
お客様に状況を確認するも分からない事多いです。いつ発生したのかを特定することが難しいです。

事例 3

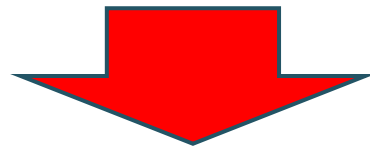
夜間の巡視でお客様の転落を発見しました。
お客様に状況を確認するも分からない状況が多いです。
いつ発生したのかを特定することが難しいです。



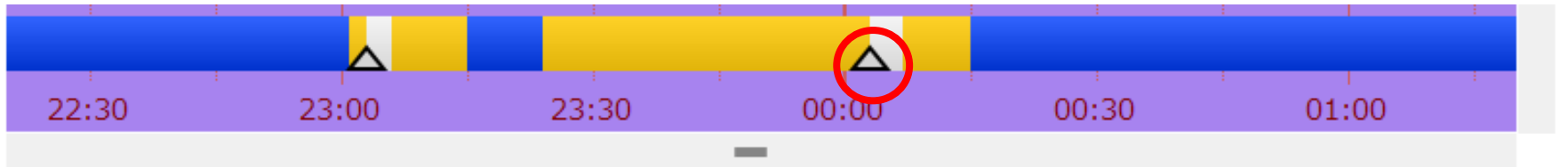
事例 3



上記表の△が離床を示しています。



拡大



★表を拡大表示することで細かい時間の特定をすることが出来ました。

★就寝時のデータを解析することで、時間を特定したり、発生の要因又は今後の対策案にととても役立っています。

看取りケア

眠りスキャンの機能を活用し、呼吸・心拍数の登録、確認にて異変への気付き、見守りの強化に備えています。

測定者の登録・編集

名前 連携ID

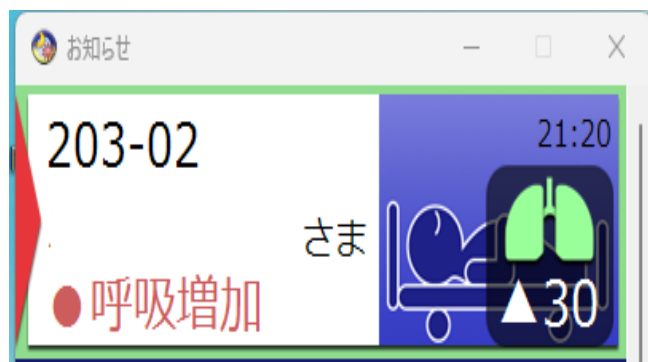
動作検知	起上り	呼吸検知	有効	心拍検知	有効
判定時間	すぐに	下限	8回/分 以下	下限	40回/分 以下
体重 [kg]	低(~45kg)	上限	40回/分 以上	上限	120回/分 以上

※機種・ソフトウェアのバージョンによっては、使用できる機能が制限されます。（使用できない機能が選択された場合は、眠りSCAN Viewer起動時にエラーメッセージが表示されます。）

鳴動回数	3回	開始時間	00:00
鳴動音	Type4	終了時間	00:00

キャンセル OK

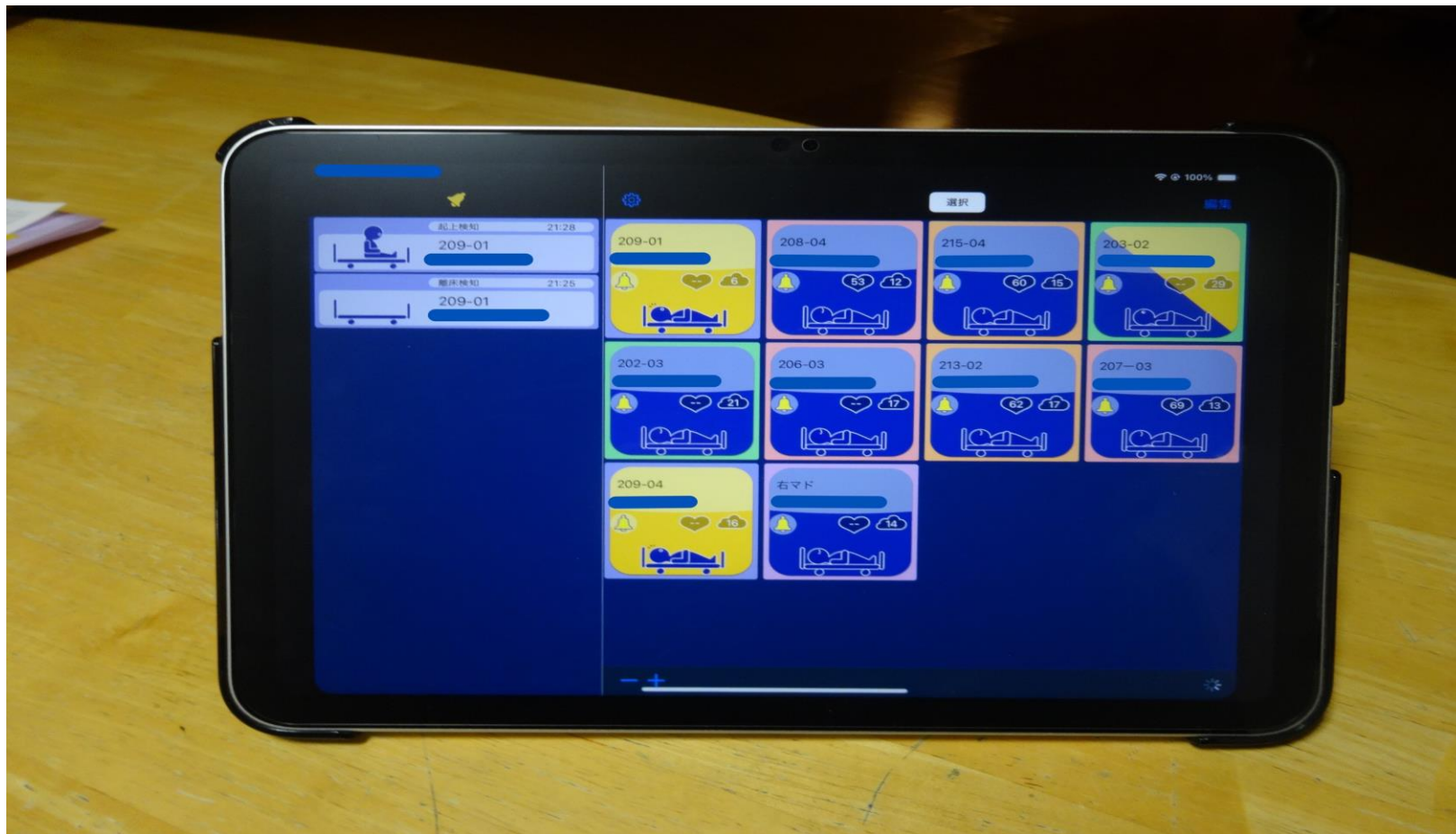
看取りケア



★呼吸数・心拍数の変動が看取りケア中のお客様の体調変化をいち早く認識することが出来ました。

★検知の回数が増えるほどに体調の低下を実感できご家族様への報告も早い段階で取ることが出来ました。

看取りケア



タブレット端末を持ち歩くことで、常時呼吸状態を確認し、呼吸停止時にも一早く駆け付けることが出来ました。

データを用いることで、傾向やパターンが識別され、直感的に理解しやすくなりました。

職員間の情報共有や伝達にも数値が入ることで共有しやすくなりました。日常の様子とデータの現象が結びつかれる部分を感じ、判断の根拠となりました。

【今後の課題】

データの種類・幅を広げ、科学的な介護が施設全体として普及されるよう、取り組んでいきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました

